



放射線科(非常勤医師)

山西 伴明

三重県出身、昭和47年生まれ、高知医科大学(現高知大学)卒業後、放射線科に入室。その後幡多けんみん病院、高知県立中央病院(現高知医療センター)、高知県立安芸病院を勤務。現職は高知大学放射線科助教として勤務。



※日本IVR学会専門医として主にカテーテル治療に従事している。

Lesson 2

肝臓がん

《肝臓がんの説明》

「肝臓がん」とは肝臓にできる癌のことですが、他の臓器から肝臓へ転移した「転移性肝臓がん」を除けば、肝臓に出来る癌の大部分は肝細胞癌です。肝細胞癌は肝臓ウイルスが原因で生じることが非常に多く、全体の70%でC型肝炎ウイルスが原因になっています。肝臓ウイルスが持続的に感染することにより、肝細胞自体では炎症や破壊、再生が繰り返して起こり、その過程において肝細胞内のDNAにある遺伝子が突然変異して癌が起ると考えられています。その他にもアルコール多飲や脂肪肝による炎症が原因になっています。

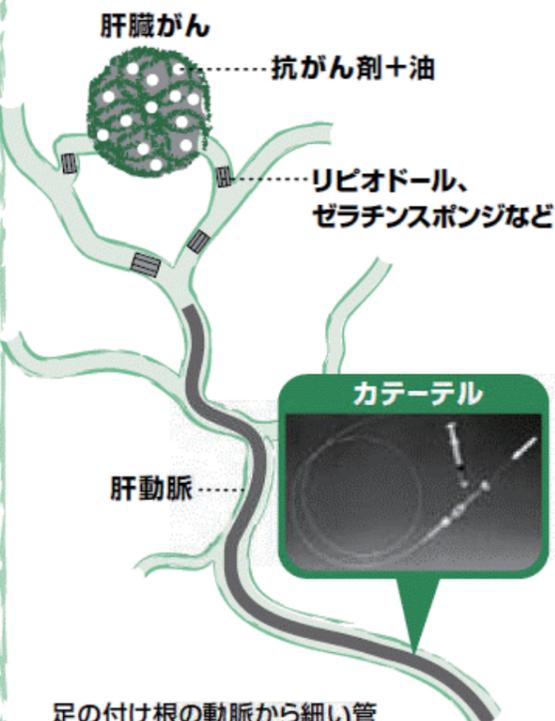
肝細胞癌の発生頻度に関してはこの安芸地区で高いことが明らかになっています。ウイルス感染がある人は肝細胞癌になる危険性が高いことから定期的な検査が必要です。そうすることで癌を早期に見つけることが可能になります。またウイルス感染がない方でも肝臓の病気が通常症状がでにくいので一般的な検診をしつかり受けることが大事と思われる。

《肝臓がんの治療》

肝細胞癌において主な治療法としては「外科手術」、「ラジオ波焼灼療法」、「カテーテル治療」;肝動脈塞栓術、「内服治療(分子標的治療薬)」があります。「一番治療成績が良いのは外科手術ですが、治療後5年元気でいられる方が半分程度とされています。ただし腫瘍の数が多かったり、肝臓の機能が弱っている方では手術適応になりません。実際に外科手術が受けられる方は3割程度とされています。全体の約半数の方はカテーテ

ル治療である肝動脈塞栓術を受けられています。繰り返し治療が可能なこの治療と、針を刺して焼くラジオ波治療を組み合わせることでよりその治療成績が外科手術に近いレベルになっていると報告されています。当院でも肝細胞癌の方に積極的にカテーテル治療を施行しています。また新しい治療薬として導入されている分子標的治療薬も進化した肝細胞癌の方でも効果が明らかになっており、今後より広まること予想されています。

動脈塞栓術 = がんの薬漬け・兵糧責め (TAE)



足の付け根の動脈から細い管(カテーテル)を肝臓の動脈まで進めていきます。

腫瘍に栄養を運んでいる動脈に、腫瘍を殺す薬や、塞いでしまう薬を注入します。

※日本IVR学会ホームページ広報委員会のパンフレットから抜粋。

Lesson 1

胃がん



外科部長

直木 一郎

専門領域は一般外科(乳腺・甲状腺)・消化器外科・内視鏡外科。日本外科学会認定医、日本消化器外科学会認定医。

がん 胃・肝臓・肺・乳・大腸 論

早期には無症状の場合も多いので注意!!

胃がんは、胃の粘膜内の細胞が何らかの原因でがん細胞に変化した悪性腫瘍です。胃がん患者数は第一位で、がんで亡くなる人の4分の1が胃がんによるものです。胃がんの原因としては、胃炎や胃潰瘍の原因となるストレスや、過剰な塩分摂取、欧米食の偏食、喫煙やアルコール、またヘリコバクターピロリ菌の持続感染などが挙げられます。つまり、生活習慣や食生活を気づかない、ピロリ菌の除菌をするなどにより、予防しやす

いがんと言えるかもしれません。胃がん、なかでも早期の胃がんでは無症状の場合も多く、集団検診や人間ドックで約半数が発見されています。当院においても積極的に内視鏡検査が行われており、カメラを飲むのが苦手な方のためにさらに径の細い経鼻内視鏡も用意されています。当院で胃がんの手

進行度に準じた治療法を選択。

胃がんの進行度は、がんの深さ、リンパ管を介したリンパ節転移、血管を介した肝臓や肺などへの転移、またがん細胞がお腹の中に散らばった腹腔播種性転移の有無などにより決定されますが、胃がんの治療は日本胃癌学会の『胃癌治療ガイドライン』を基に、この進行度に準じた治療法が選択されています。治療法としては、治療を目的とすれば切除が第一選択となりますが、がんが粘膜にとどまり、転移のない早期がんには内視鏡を用いた手術が、またがんが深く広がり、リンパ節や他の内臓に転移のあるがんには手術室で行う外科

術を受けていただいた患者さまの場合、すでに進行した状態で発見された方も多く、東部地区にお住まいの方の積極的な検診への参加が望まれます。

Table with 3 columns: Endoscopic Surgery, Open Surgery, and Others. Lists various treatment options like Polypectomy, EMR, ESD, Laser, etc., with symbols indicating availability.

手術が選択されます。治療が目的ではなく、出血や食物の通過障害に対してもこれらの手術が行われることがあります。その他、抗がん剤治療は手術前に手術可能な状態までがんを小さくしたり、手術後のがんの再発を抑えたり、また不幸にも再発したがんに対し延命効果を得る目的で、当院でも多数行われています。がん治療を宣告された患者さまには、肉体的にも精神的にも多大な負担がのしかかっています。当院では、様々な職種スタッフがそれぞれの専門分野で患者さまと関わり、このような負担を少しでも軽減できるよう努力を続けてまいります。

日本人のためのがん予防法

※独立行政法人国立がん研究センターがん対策情報センターHPより抜粋。

- 喫煙: たばこは吸わない。他人のたばこの煙をできるだけ避ける。
身体活動: 日常生活を活動的に過ごす。
飲酒: 飲むなら、節度のある飲酒をする。(日本酒なら1合、ビールなら大瓶1本)
食事: 食事は偏らず、バランスよくとる。 ※食塩の摂取は最小限にする。 ※野菜や果物不足にならない。
体形: 成人期での体重を適正な範囲に維持する。(太りすぎない・やせすぎない)
感染: 肝炎ウイルス感染の有無を知り、感染している場合は治療措置をとる。